

経済学部新入学生のスポーツ実施度の調査：幼稚園期から高校期まで

著者	渡部 近志
出版者	法政大学体育・スポーツ研究センター
雑誌名	法政大学体育・スポーツ研究センター紀要 = The Research of Physical Education and Sports, Hosei University
巻	28
ページ	37-39
発行年	2010-03-31
URL	http://doi.org/10.15002/00007563

経済学部新入学生のスポーツ実施度の調査

—幼稚園期から高校期まで—

A survey of past sports activities rate of 2009 Faculty of Economics freshmen: From kindergarten through senior high school

渡部 近志
Chikashi Watabe

1、はじめに

わが国の青少年の運動・スポーツ実施レベルは、「青少年のスポーツライフデータ2002-10代大のスポーツライフに関する調査報告書：SSF 笹川スポーツ財団²⁾」によれば二極化現象を見せているという。「青少年の8人に1人が過去1年間にまったく運動やスポーツを行っていないこと、週1回に満たない水準にある者も2割弱いることが明らかになり、合わせて3割強の青少年が定期的な運動やスポーツを実施していないことがわかった。つまり、週5回以上行う者は4割に達する」ことを明らかにし、また「週に5回以上行う4割と週1回に満たない3割という二極化現象」を明らかにしている。そこで本報告は、「そうした青少年らのスポーツライフの二極化という社会的現象に着目し、2009年4月の本大学経済学部に入学した新入学生を対象として、幼児期から高校期までの「スポーツ実施度」を明らかにすることを目的として調査を行った。

2、調査の内容

経済学部入学生に対して幼児期、小学校期、中学校期、高校期のそれぞれの期に於けるスポーツの実施（参加）レベルを、「青少年のスポーツライフデータ2002/青少年の運動・スポーツの実施レベル表」を用いて調査を行った。

青少年の運動・スポーツ実施レベル

実施レベル	基 準
レベル 0	非実施
レベル 1	年1回以上週1回未満
レベル 2	週1回以上週5回未満
レベル 3	週5回以上
レベル 4	週5回以上1回120分以上 ややきつい

3、調査方法及びサンプル数

調査方法は、新年度第1回目のスポーツ総合（体育実技）の時限別クラス合同ガイダンス時に、アンケート用紙を配布しその場で記入させたものを回収した。

回収数は853件であったが、不明瞭に記入された調査紙は集計には採用しなかった。よって集計に用いられた件数は846件となった。

4、結果

4-1 幼稚園期のスポーツ実施度

表1は就学前の幼稚園期のスポーツ参加レベルを全体、男子学生、女子学生別にまとめたものである。図1は、その表を図にまとめたものである。

表1 幼稚園期のスポーツ実施度

	全体(人)	%	男子学生	%	女子学生	%
レベル0	523	62	391	59	132	72
レベル1	83	10	74	11	9	5
レベル2	213	25	174	26	39	21
レベル3	23	3	22	3	1	1
レベル4	4	1	2	1	2	1
	846	101	663	100	183	100

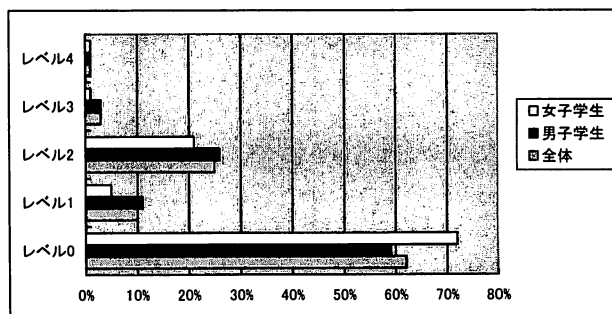


図1 幼稚園期のスポーツ実施度

全体的にはスポーツの参加率は、「レベル0」が最も多く全体では62%、また性差別では女子のスポーツ非実施度が高

い傾向を示していた。しかし「レベル2」（週1回以上週5回未満）のスポーツ実施度は、全体で25%、性差間においても男子26%、女子21%と言ったように低位な値ではあるがスポーツ実施度がみられた。また、実施スポーツ種目でも性差間に特徴が見られていた。女子では「水泳」、男子では「体操」「サッカー」「野球」などのスポーツ種目に実施傾向がみられた。

4-2 小学校期のスポーツ実施度

表2は就学前の幼稚園期のスポーツ実施レベルを全体、男子学生、女子学生別にまとめたものである。図2は、その表を図にまとめたものである。

表2 小学校期のスポーツ実施度

	全体(人)	%	男子学生	%	女子学生	%
レベル0	164	19	106	16	58	32
レベル1	72	9	55	8	17	9
レベル2	428	51	347	52	81	44
レベル3	111	13	102	15	9	5
レベル4	71	8	53	8	18	10
	846	100	663	99	183	100

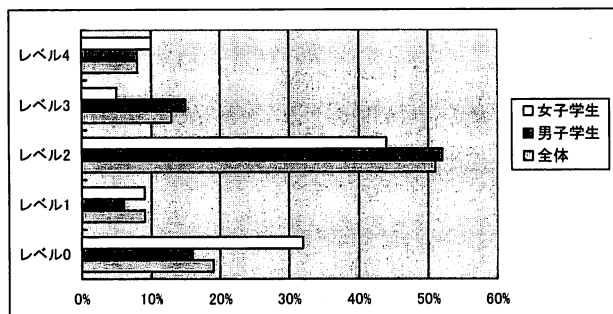


図2 小学校期のスポーツ実施度

小学校期でのスポーツの実施は、男女とも「レベル0」（非実施）が幼稚園期と比較して低位な傾向を示し、「レベル2」（週一回以上5回未満）のスポーツ実施度に高位な増加率を示していた。小学校期におけるスポーツ実施度については、「青少年のスポーツライフデータ」2)の調査結果においても本調査結果と同傾向、「レベル2」45.2%、「レベル3」（週5回以上）28%といった実施度を報告している。

小学校期のこうしたスポーツの実施度の高位な変化は、スポーツに対する姿勢や欲求が小学校期に高まることを明らかに示しているものと考えられる。そうした視点から本学部大学生の小学校期のスポーツ実施度も、全国平均値レベル内でのスポーツ参加傾向が見受けられた。また実施スポーツ種目は女子では、水泳、ミニバスケットボール、バレーボール、男子では野球、サッカー、ミニバスケット、水泳などのスポーツ種目実施傾向がみられた。

4-3 中学校期のスポーツ実施度

表3は就学前の幼稚園期のスポーツ参加レベルを全体、男子学生、女子学生別にまとめたものである。図3は、その表を図にまとめたものである。

表3 中学校期のスポーツ実施度

	全体(人)	%	男子学生	%	女子学生	%
レベル0	121	14	67	10	54	30
レベル1	37	4	26	4	11	6
レベル2	201	24	161	24	40	22
レベル3	212	25	183	28	29	16
レベル4	275	33	226	34	49	27
	846	100	663	100	183	101

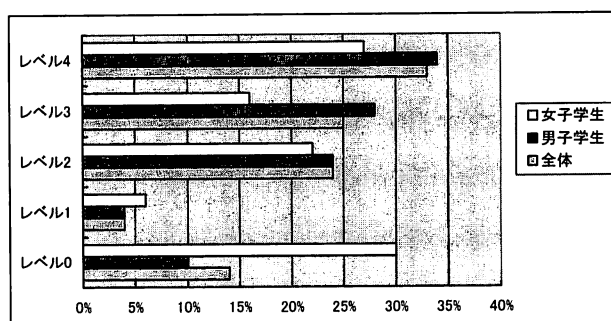


図3 中学校期のスポーツ実施度

この期の大きな特徴的傾向はレベル0が大幅に低下傾向を示し、スポーツへの積極的な実施傾向は高く、「レベル4」（週5回以上1回120分以上、ややきつい）の積極的なスポーツ実施姿勢と、その実施度に大きな特徴が見られた。「青少年のスポーツライフデータ」2)においても、この期のスポーツへの実施は「レベル2」から「レベル4」のそれぞれレベル度合20.4%、22.9%、35.8%の高位にその傾向を示していた。

本調査においても「レベル2」（週1回以上週5回未満）24%、「レベル3」（週5回以上）25%、「レベル4」33%の高位な実施度を示していた。「中学校では74%が何らかの運動部に入る」1)と言われるすように、中学校期におけるスポーツ活動への実施度は高位に高い意向を示していた。

スポーツ種目は男子では、卓球、野球、バドミントン、バスケットボール、バレーボール、サッカー、陸上競技、テニスなど多種目に渡っている。また女子においても、そのスポーツのニーズは男子同様に幅広いスポーツ種目に実施する傾向が見られた。

4-4 高校期のスポーツ実施度

表4は就学前の幼稚園期のスポーツ参加レベルを全体、男子学生、女子学生別にまとめたものである。図4は、その表を図にまとめたものである。

表4 高校期のスポーツ実施度

	全体(人)	%	男子学生	%	女子学生	%
レベル0	224	26	135	20	89	49
レベル1	69	8	61	9	8	4
レベル2	197	23	158	24	39	21
レベル3	118	14	99	15	19	10
レベル4	238	28	210	32	28	15
	846	99	663	100	183	99

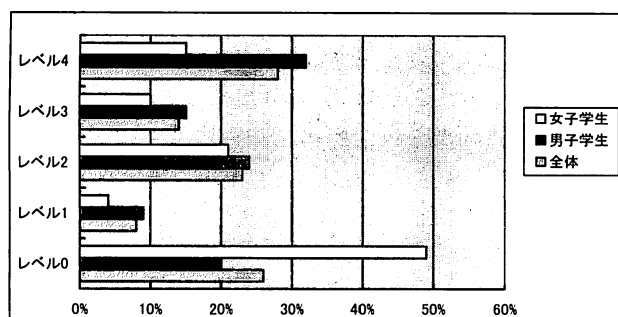


図4 高校期のスポーツ実施度

全体として高校期のスポーツ実施の傾向は、「レベル0」から「レベル4」までに分散化傾向が見られた。高校期におけるスポーツ実施度は「青少年のスポーツライフデータ2」においても、「レベル0」（非実施）16%、「レベル1」（年1回以上週1回未満）22.7%、「レベル2」（週1回以上週5回未満）、「レベル3」（週5回以上）17.5%、そして「レベル4」（週5回以上1回120分以上、ややきつい）23.2%といったように本結果と同様な傾向を報告をしていた。

性差間の傾向では、顕著に女子学生の方がスポーツから離れる傾向が高位に高い傾向が見られた。実施スポーツ種目は、男子は野球、サッカー、卓球、陸上競技、バレーボール、ラグビー、テニス、バドミントン、剣道、そしてバスケットボールなど多種目にわたる。また女子では、ダンス、バレーボール、バスケットボール、バドミントン陸上競技などの種目がみられた。

5、まとめ

本調査は2009年度の経済学部に入学者を対象として、各学校期（幼稚園、小学校期、中学期、高校期）に於ける、スポーツ実施度を明らかにすることを目的として行った。その結果、本学部に入学者の各学校期に於けるスポーツの実施傾向は、幼稚園期から中学校期にかけての実施度が増加傾向を示していた。特に中学校期においては「レベル2」（週1回以上週5回未満）、「レベル3」（週5回以上）、「レベル4」（週5回以上・ややきつい）の実施傾向が性差間に関係なく高い傾向が見られた。高校期のスポーツ実施の特徴的な傾向としては、中学校期と同様に総体的にはスポーツの実施傾向がある一方で、「レベル0」（非実施）のスポーツ非実施の顕著な傾向としてみられた。男子は、中学校期14%から12

ポイント上昇し26%、女子は19ポイントの上昇の49%のスポーツ非実施度が見られた。女子のスポーツ非実施の傾向については、各学校期とも顕著な傾向として現れていた。

6、参考文献

- 1) スポーツと健康98；第一法規出版社
- 2) 青少年のスポーツライフデータ2002-10代のスポーツライフに関する調査報告書一；SSF笹川スポーツ財団。